

祭りの熱気を伝える の夜に煌々と輝き、 角提灯山と四角提灯山

笠若衆会です。若衆のメンバーは毎年

そんな提灯山を支えるのが、

7月中旬から提灯山の山車の点検や整

組立練習を夜7時頃から荕原公民

館で行っています。

30人で支えられています。 笠の魅力のひとつ。 の曳き手など、一つの山が総勢およそ 2人ずつ付く華頭、そしておよそ12人 の若衆頭、 201個、 灯で構成されており、 人の囃子、8~ 勇壮な提灯山の組立競争は、 四角提灯山は240個の提 艶やかな音色を響かせる3 人の組み手、 山の運行を担う4人 山の重さは1・5 三角提灯山は 山の前後に 多久山

▲迫力満点の提灯山の曳き廻し 組立練習を行う会員(右) 練習の積み重ねで本番に臨みます

昭和62年 昭和60年

砂原区が荕原山笠に参加するよう

四角提灯山を製作

を変更

になり、

「多久山笠祭り」に名称

昭和55年 昭和33年

初代荕原式担ぎ三角提灯山笠を製作

三角提灯山笠ー台と人形山笠ー台

再び荕原区のみで運行開始

砂原区も荕原山笠に参加

昭和30年

荕原消防と砂原消防が合併して、

笠祭りが始まる

昭和23年

当時の荕原消防団長東郷七蔵氏は

じめ数名で囃し方を結成し荕原山

引き (8月20日、21日) が行われ

大師祭り」の協賛行事として盆綱 荕原「天徳寺」開祖による「天徳

大正末

されます。 8月15日、16日に多久駅周辺で開催 大の夏祭り、『多久山笠』が今年も 夏の恒例行事であり、多久市内最

▲「ヨイトサー、ヨイト サー」の掛け声で手際よ く提灯山の組立披露をす

上がり、多久の夏の夜を彩ります。 ながら多久駅周辺を練り歩きます。 灯山2台が笛や太鼓の音色を響かせ き廻しは豪快で勇壮です。フィナー レにはおよそ750発の花火が打ち 岩衆会による提灯山の組立競争や电 豪華絢爛な人形山2台、 勇壮な提





を引いていたそうです から、毎年借りて山車 ▼昭和50年頃の山車 唐津の浜崎の人形師



昭和23年当時の荕原山笠

三角提灯山を1台新調して、提灯 台で運行開始 山笠2台、人形山笠2台、合計4

平成19年

行開始

人形山2台、

四角提灯山1台で運